

松原市セーフコミュニティ  
交通安全対策委員会  
活動報告

— 再認証 現地審査 —

報告者

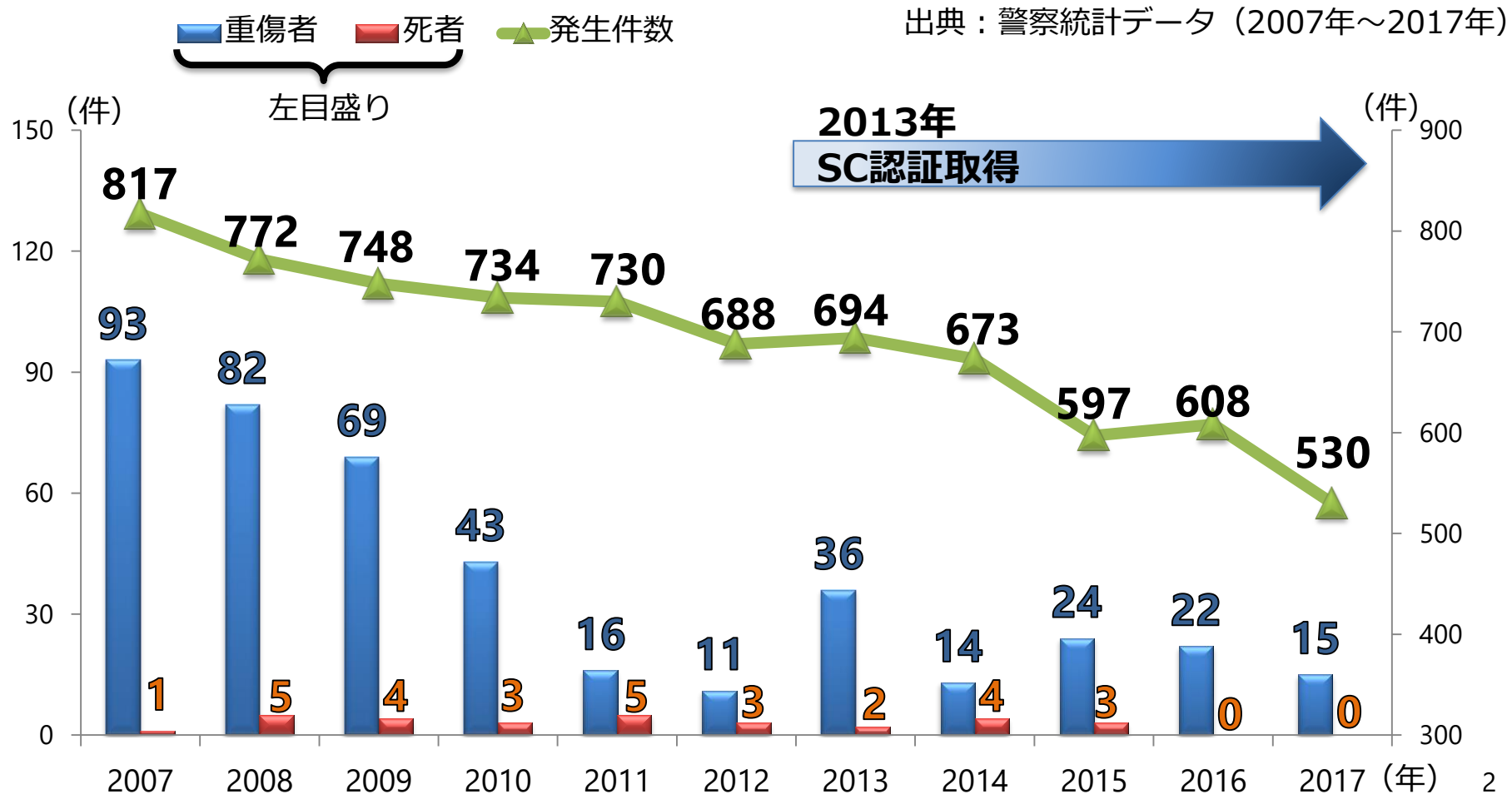
交通安全対策委員会 委員長 山本 剛

所属：松原交通安全協会 会長

# 対策委員会設置の背景①

松原市内の交通事故発生件数、重傷者数は年々減少しているが、交通事故発生件数は、まだ多い状況である。

( 図表1: 松原市内の交通事故発生件数の推移 重傷者数および死者数の推移 )

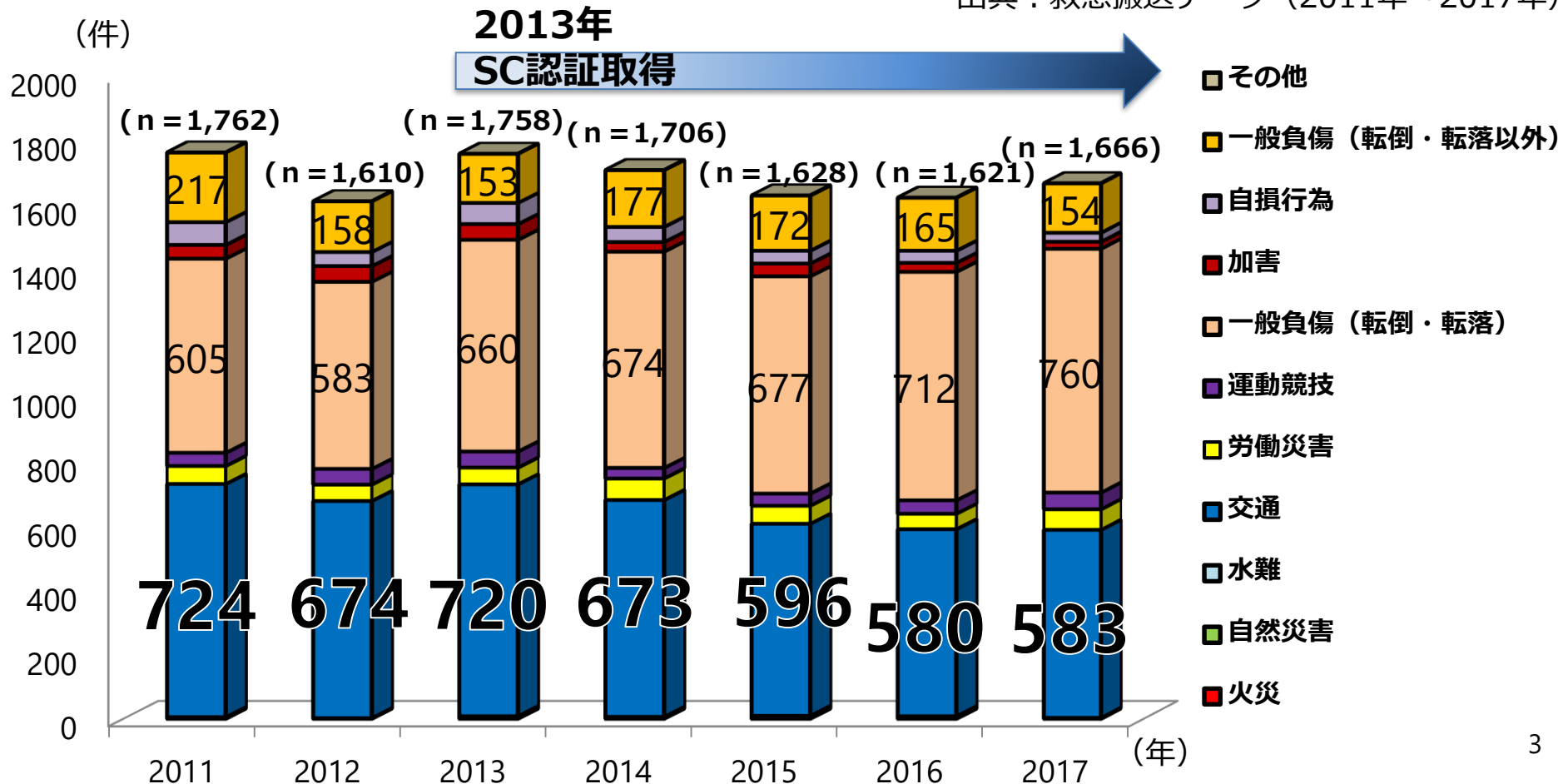


# 対策委員会設置の背景②

事故別の救急搬送の中で交通事故は転倒・転落に次いで多い。  
 (救急搬送の約35%は交通事故による外傷)

(図表2：事故種別による分類 外傷・事故別救急搬送件数) (n = 総数)

出典：救急搬送データ (2011年～2017年)

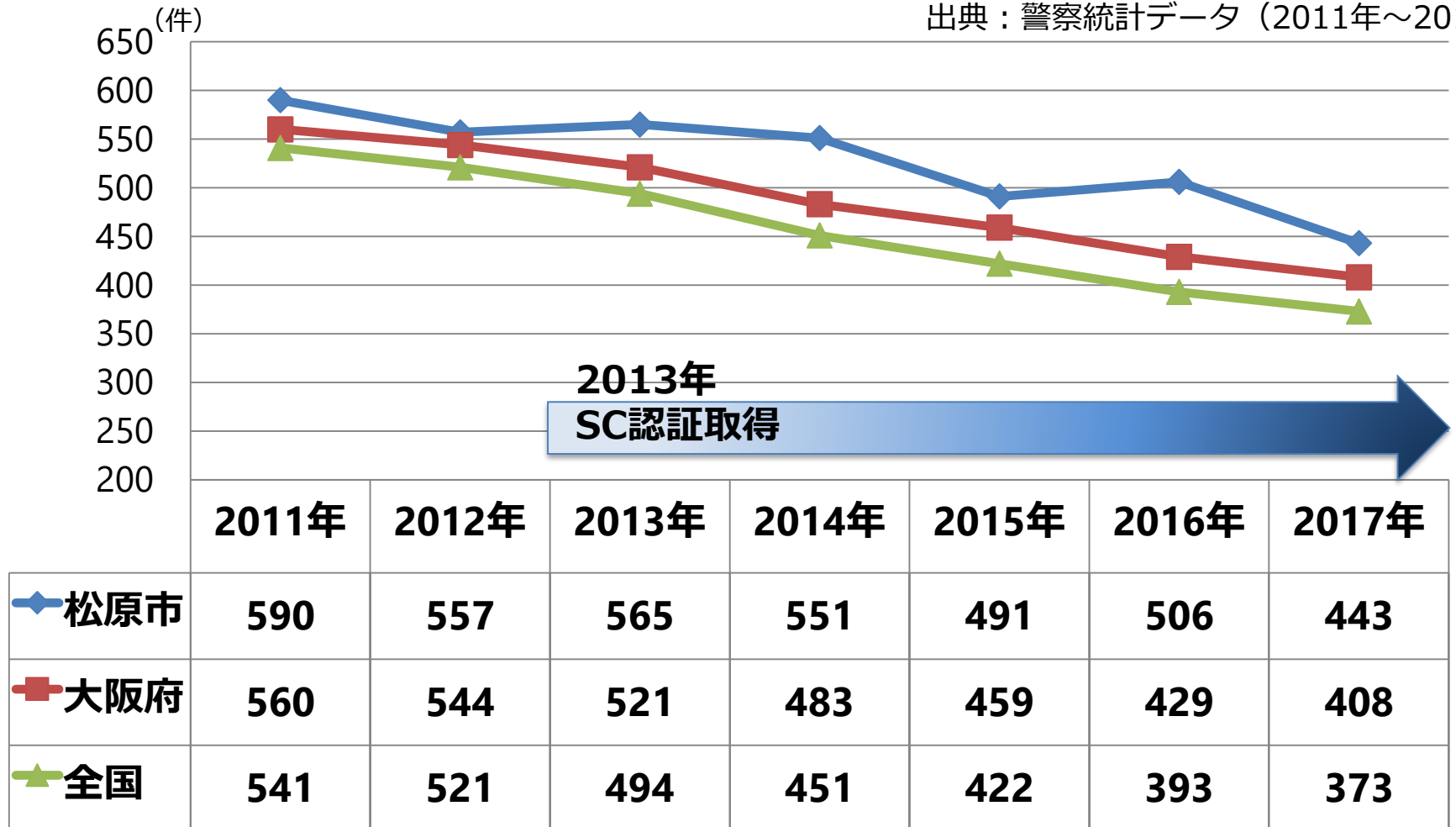


# 対策委員会設置の背景③

松原市内の交通事故発生件数は、国や府を上回っている。

( 図表 3 : 交通事故発生件数の推移件数 人口10万対 )

出典：警察統計データ（2011年～2017年）



# 交通安全対策の必要性

## 背景①

松原市内の交通事故発生件数は年々減少しているが、まだ多い状況である。

(図表1)

## 背景②

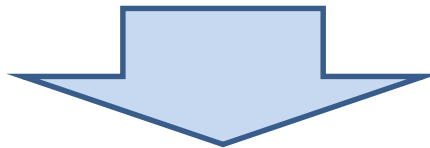
事故別の救急搬送の中で交通事故が多い。

(図表2)

## 背景③

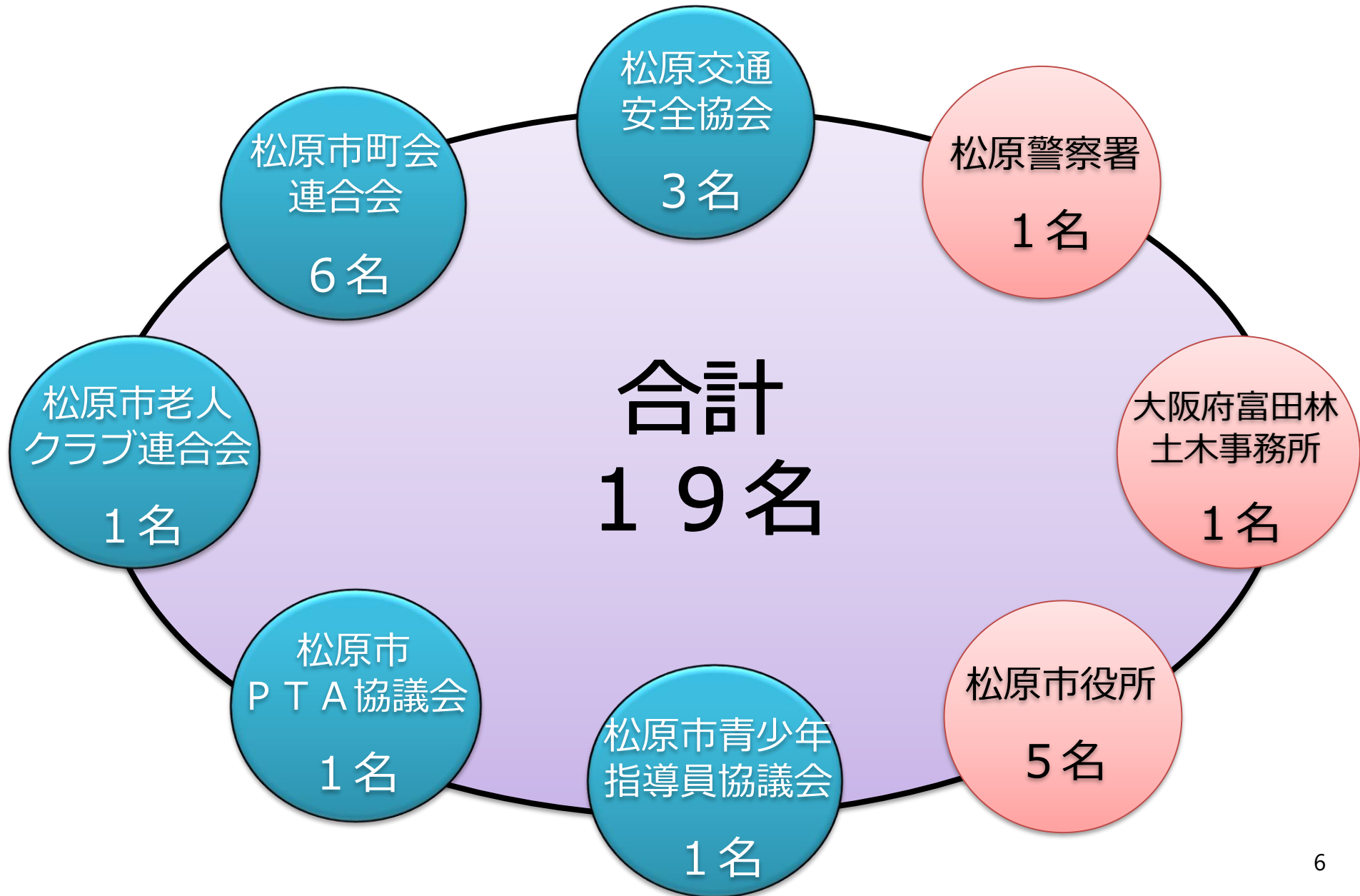
松原市内の交通事故発生件数は、国や府を上回っている。

(図表3)



# 交通安全対策委員会の設置

# 交通安全対策委員会の構成

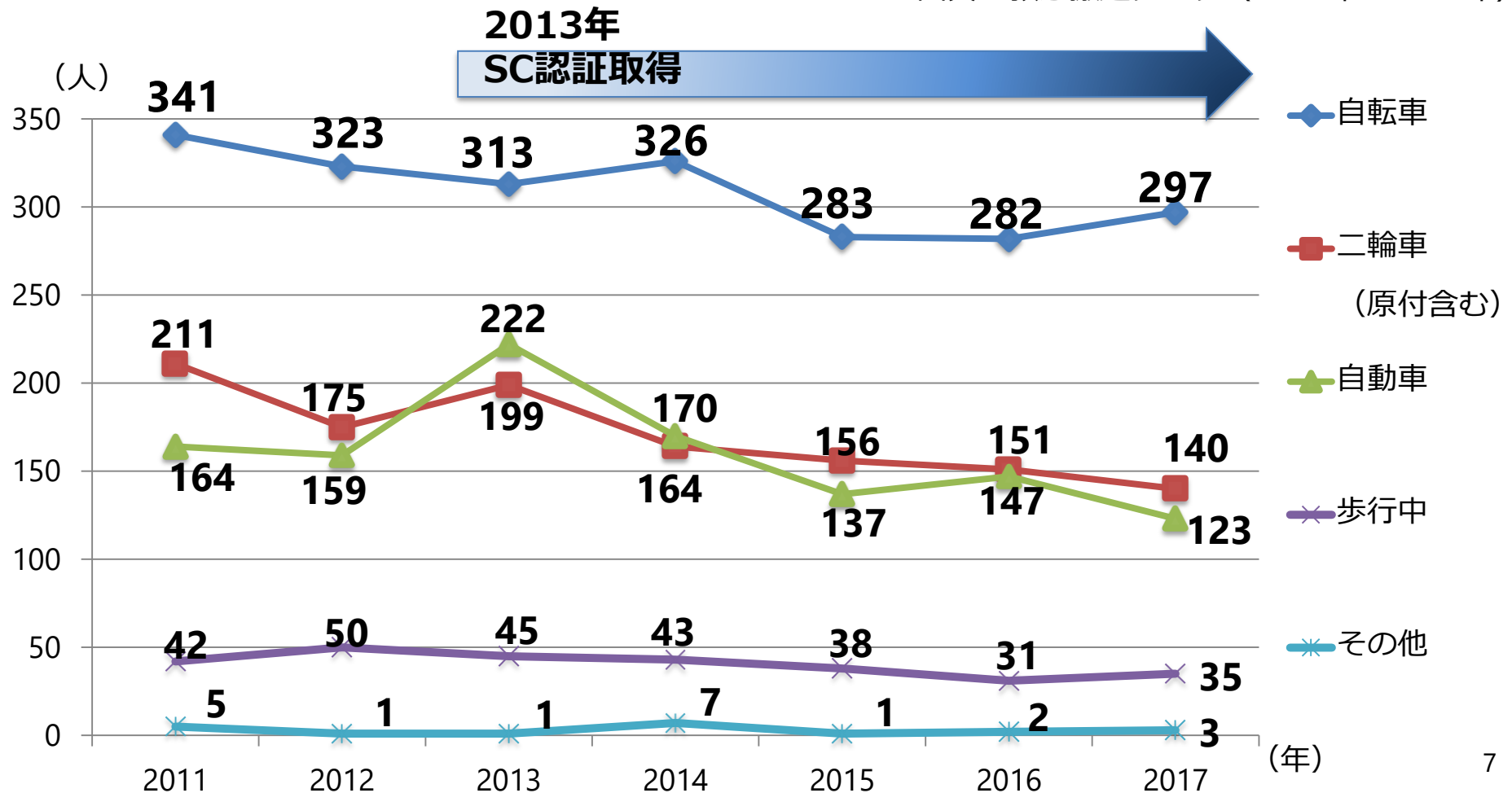


# データに基づく客観的課題①

交通事故の行動別救急搬送の中で、自転車乗用中の事故における受傷者が多い。

( 図表4:交通事故の行動別救急搬送の受傷者数)

出典：救急搬送データ（2011年～2017年）

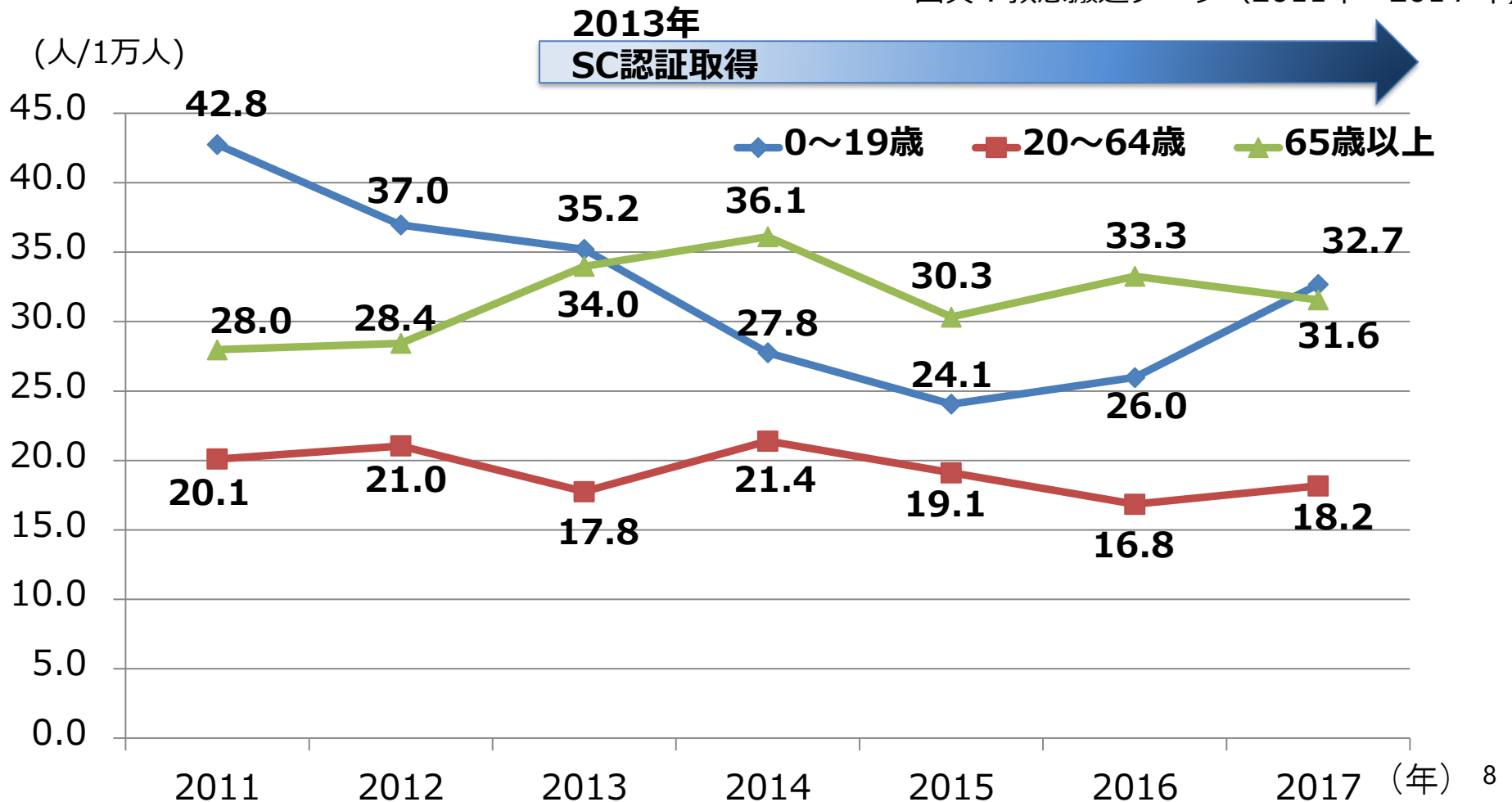


# データに基づく客観的課題②

## 子ども（未成年）と高齢者に自転車事故が多い

( 図表5:自転車乗用中受傷者の年齢別救急搬送率)

出典：救急搬送データ（2011年～2017年）





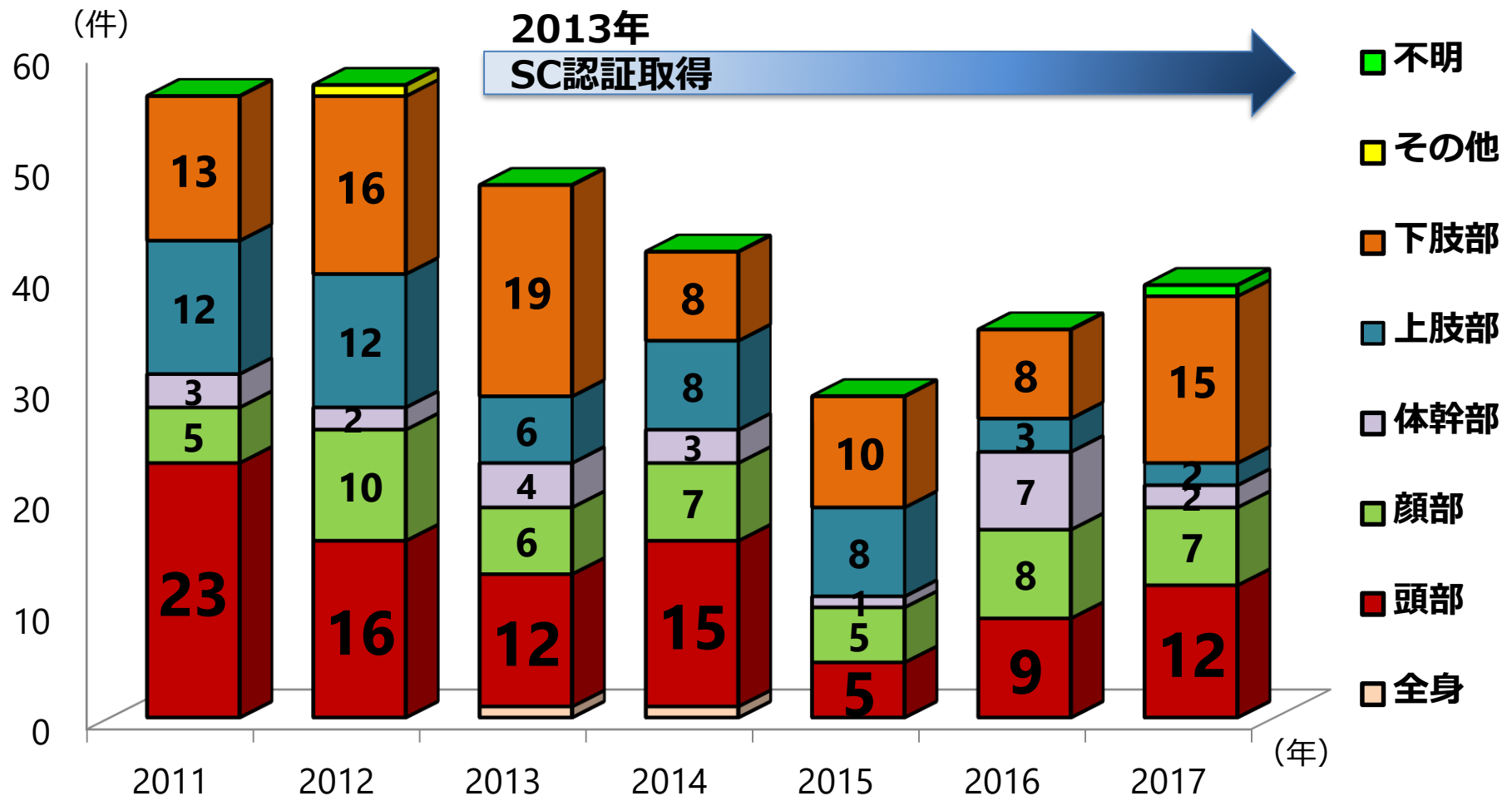
# データに基づく客観的課題③

ヘルメット着用努力義務のある13歳未満を対象に、自転車乗用中受傷部位別を見ると・・・

## 頭部受傷が多い

( 図表6:13歳未満の自転車乗用中受傷部位別集計の推移)

出典：救急搬送データ（2011年～2017年）

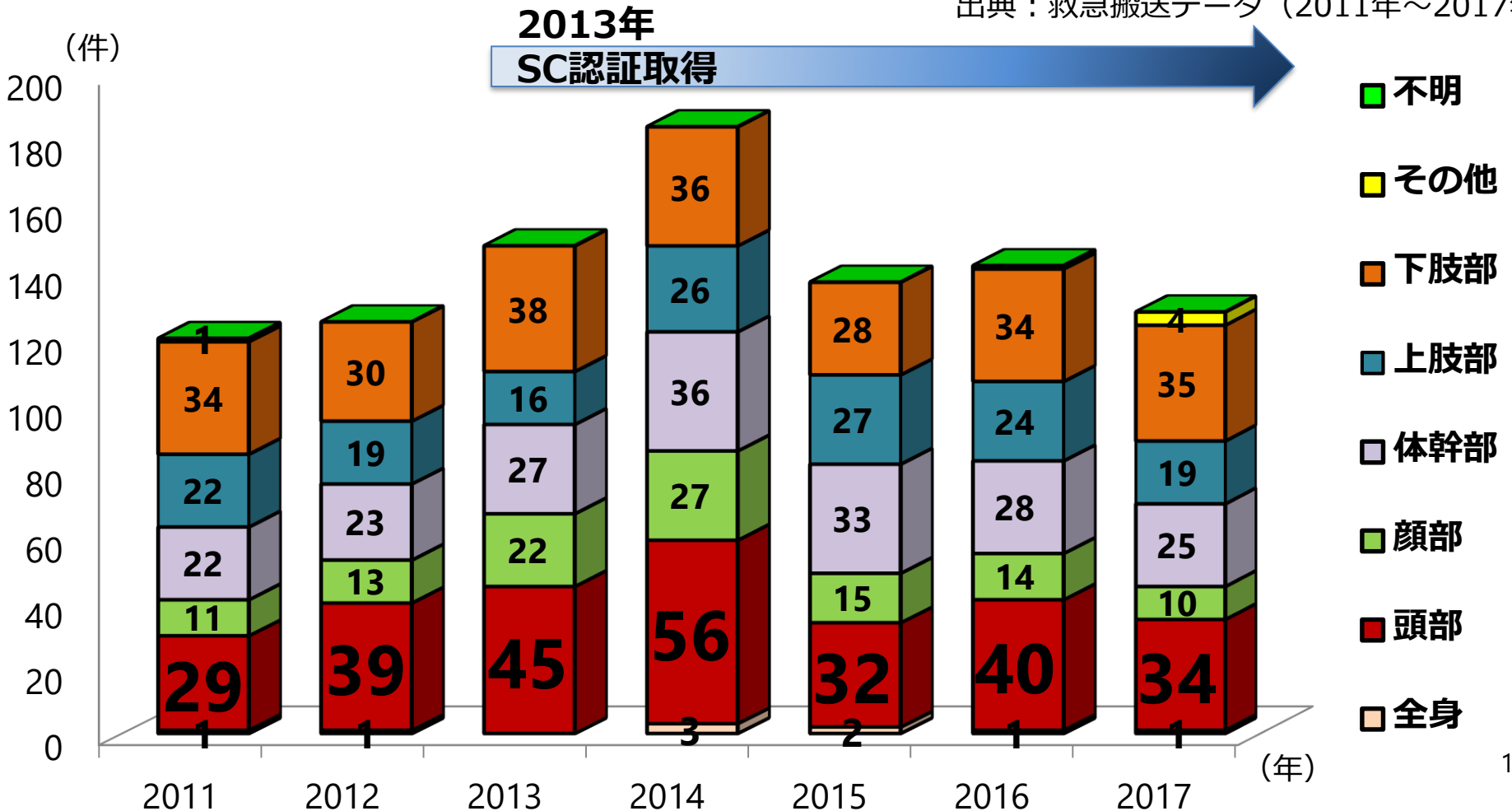


# データに基づく客観的課題④

自転車事故の件数が多い高齢者（65歳以上）の自転車乗用中受傷部位別を見ると・・・ **高年齢層も頭部受傷が多い**

（**図表7**:65歳以上の自転車乗用中受傷部位別集計の推移）

出典：救急搬送データ（2011年～2017年）



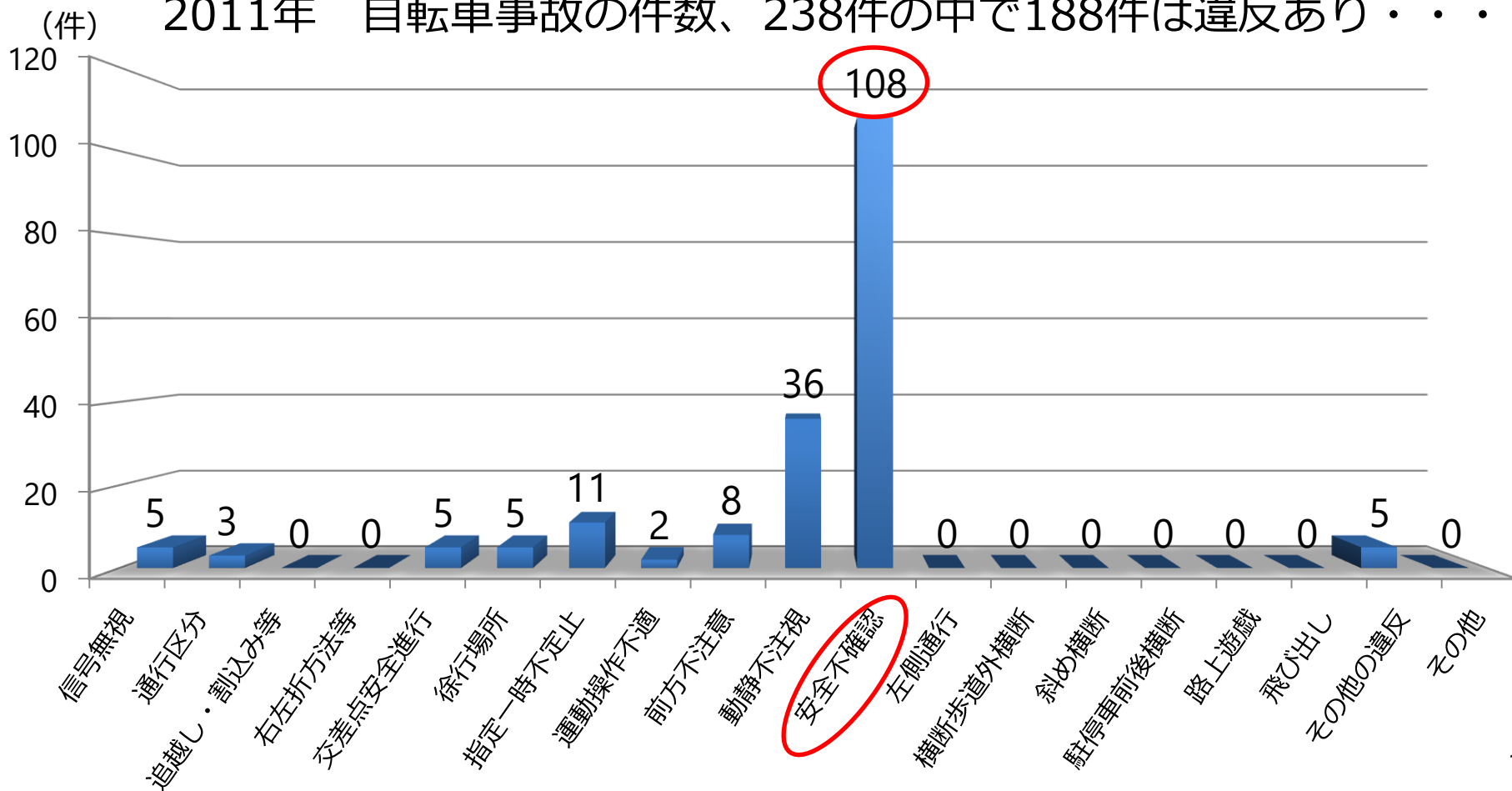
# データに基づく客観的課題⑤

## 違反の中で安全不確認が半数以上

(図表8：自転車関連交通事故の自転車側の事故原因)

出典：警察統計データ（2011年）

2011年 自転車事故の件数、238件の中で188件は違反あり・・・

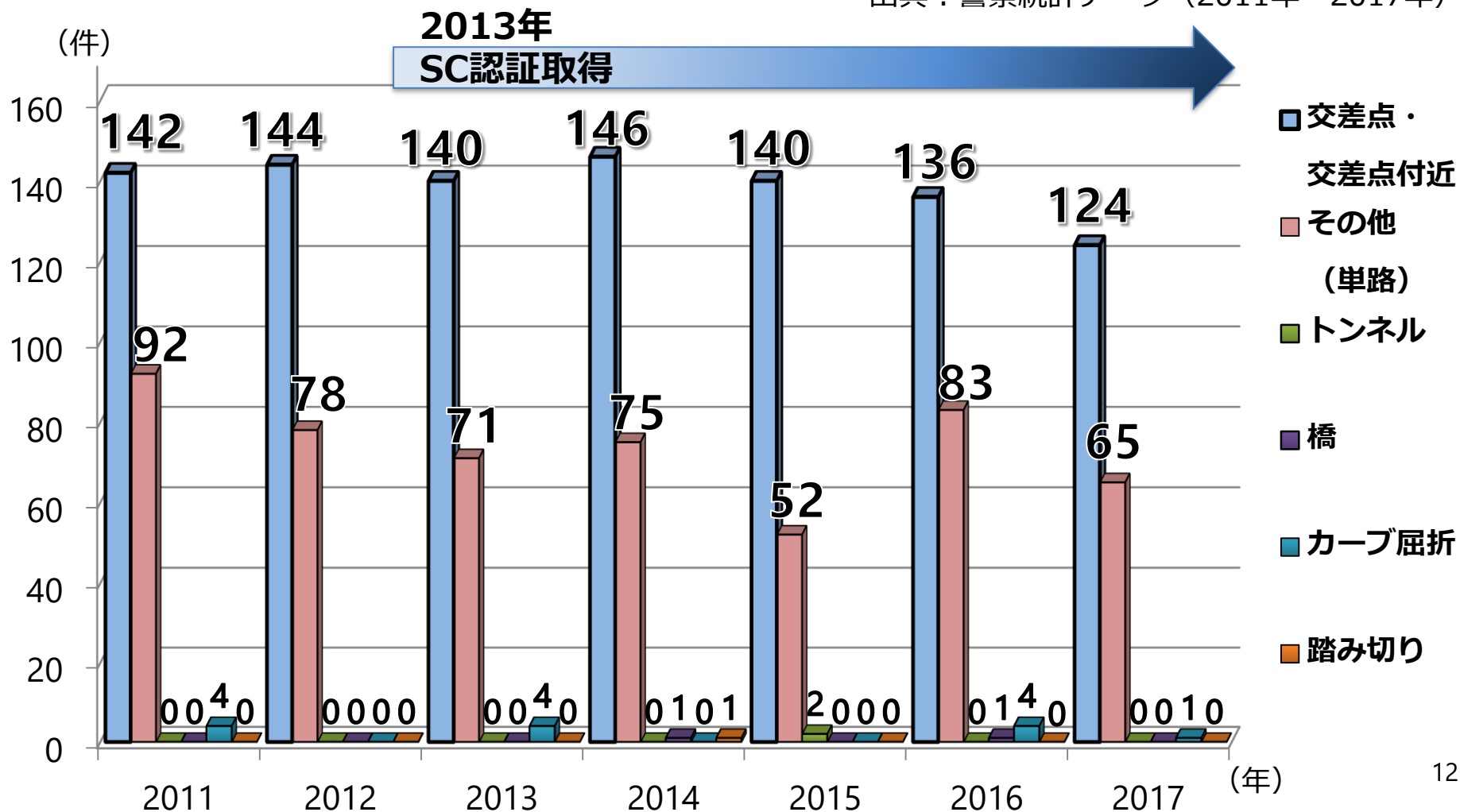


# データに基づく客観的課題⑥

自転車の交通事故は交差点・交差点付近での事故が多い

( 図表9: 場所別 自転車の交通事故発生件数の推移)

出典：警察統計データ（2011年～2017年）



# 課題の整理

## 主観的課題

・自転車の交通ルール、マナーを守っていない人が事故に遭う危険性が高い。

(携帯を見ながら運転したり、横並びで運転している等。)

## 客観的課題

・子ども（未成年）と高齢者に自転車事故が多い。

(図表4、図表5)

・頭部受傷割合が高い。

(図表6、図表7)

・違反の中で安全不確認が半数以上。

(図表8)

・自転車の交通事故は交差点・交差点付近での事故が多い。

(図表9)

重点課題の決定

# 重点課題

## 課題①

子どもと高齢者の自転車乗用中の事故の割合が高い

## 課題②

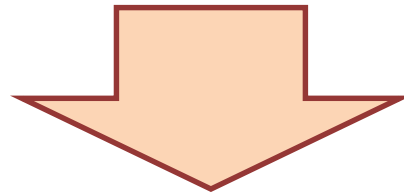
頭部受傷率が高い

## 課題③

自転車乗用者がルール違反をしている割合が高い

## 課題④

交差点等、事故が起こりやすい場所がある



予防対象 子どもと高齢者

# 課題に対する取り組み

## 課題

### 課題①

子どもと高齢者の自転車乗用中の事故の割合が高い

### 課題②

頭部受傷率が高い

### 課題③

自転車乗用者がルール違反をしている割合が高い

### 課題④

交差点等、事故が起こりやすい場所がある

## 方向性

### 方向性①

安全な環境づくり

### 方向性②

自転車利用者の交通安全意識の向上

## 取組

### 取組①

危険箇所への対策

### 取組②

自転車の交通ルール、マナーの周知

### 取組③

ヘルメットの着用啓発

# 課題①③に対するレベル別の対策

課題	対策			
	方向性	国・府レベル	市レベル	地域レベル
<p>(課題①) 子どもと高齢者の自転車乗用中の事故の割合が高い。</p> <p>(課題③) 自転車乗用者がルール違反をしている割合が高い。</p>	教育・啓発	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆交通安全計画の策定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆交通安全教室</li> <li>◆広報、SNSでの啓発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆各学校、老人クラブ等での交通ルール・マナーの啓発</li> </ul>
	規制・罰則	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆道路交通法による規制・罰則</li> <li>◆大阪府自転車条例</li> <li>◆警察の取締り</li> </ul>		
	環境整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆規制に関連する道路標識の設置、路面標示の施工（止まれ、ゾーン30等）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆通学路対策</li> </ul>	

**交通安全対策委員会の取り組み  
自転車の交通ルール・マナーの周知**

- ・交通安全教室
- ・街頭啓発活動
- ・広報での周知、啓発活動



# 課題②に対するレベル別の対策

課題	対策			
	方向性	国・府レベル	市レベル	地域レベル
(課題②) 頭部受傷率が高い。	教育・啓発	◆交通安全計画の策定	◆高齢者自転車用ヘルメット購入費助成	◆町会、老人クラブ等でヘルメットの普及・着用啓発
	規制・罰則	◆道路交通法による規制 ◆大阪府自転車条例		
	環境整備			

**交通安全対策委員会の取り組み  
ヘルメットの着用啓発**

- ・自転車用ヘルメットの考案
- ・街頭啓発活動
- ・町会、老人クラブ等への周知、普及・着用啓発

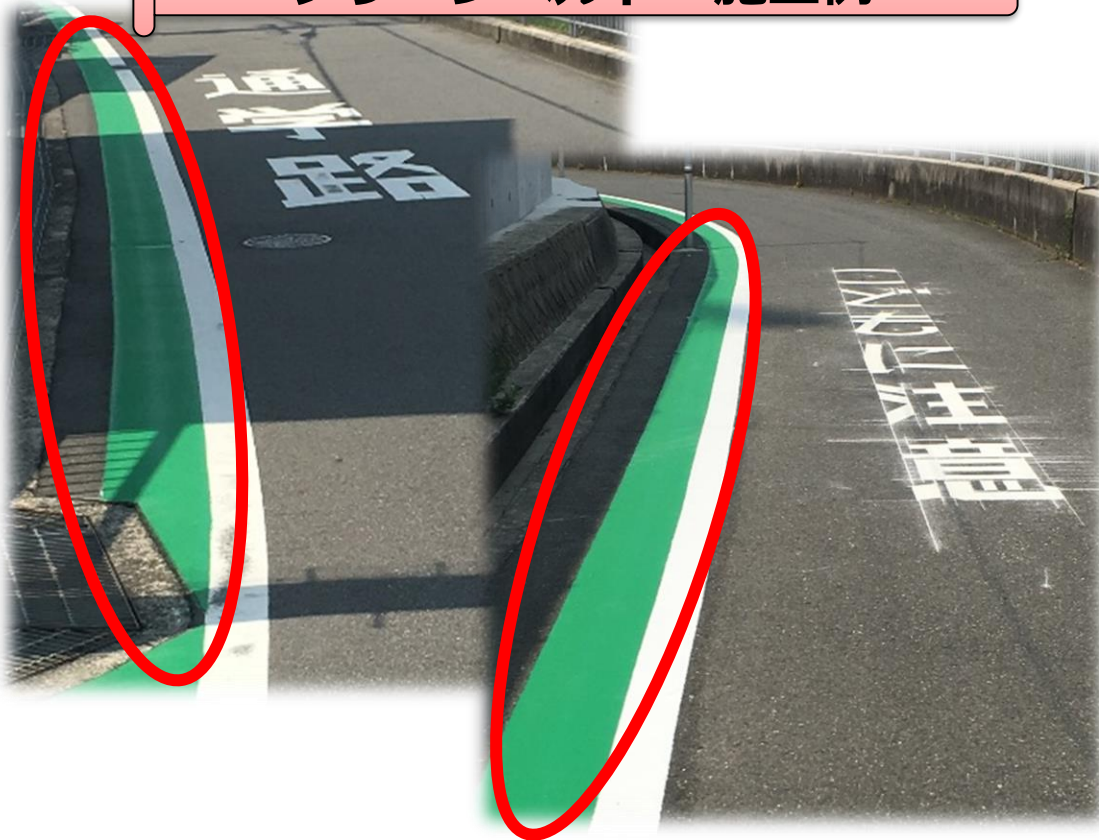
# 課題④に対するレベル別の対策

課題	対策			
	方向性	国・府レベル	市レベル	地域レベル
(課題④) 交差点等、事故が起こりやすい場所がある。	教育・啓発	◆交通安全計画の策定	◆交通安全関係団体への活動費補助	◆各学校、老人クラブ等での注意喚起
	<b>交通安全対策委員会の取り組み</b> <b>・街頭啓発活動</b>			
	規制・罰則	◆大阪府自転車条例		
環境整備	◆国・府道の道路整備工事等の実施 ◆信号機、横断歩道の設置	◆注意喚起の路面標示、看板設置 カーブミラーの整備 ◆市道の道路整備工事等の検討、計画、整備の実施（町会からの要望含む）	◆交通安全に関する注意喚起の看板設置 ◆道路、路面標示等の整備、工事について、町会から市へ要望を提出。	
<b>交通安全対策委員会の取り組み</b> <b>危険箇所への対策</b> <b>・交通安全ポイントマップの活用</b> <b>・危険箇所の整備</b>				

# 通学路対策

## (課題①③に対するレベル別の対策)

通学路の整備  
グリーンベルト 施工例



通学路の整備  
路面標示 施工例



安心・安全に通学できる環境づくりを!!

# 道路環境の整備

## (課題④)に対するレベル別の対策)

カーブミラーの整備



注意喚起の路面標示



町会 巻看板設置

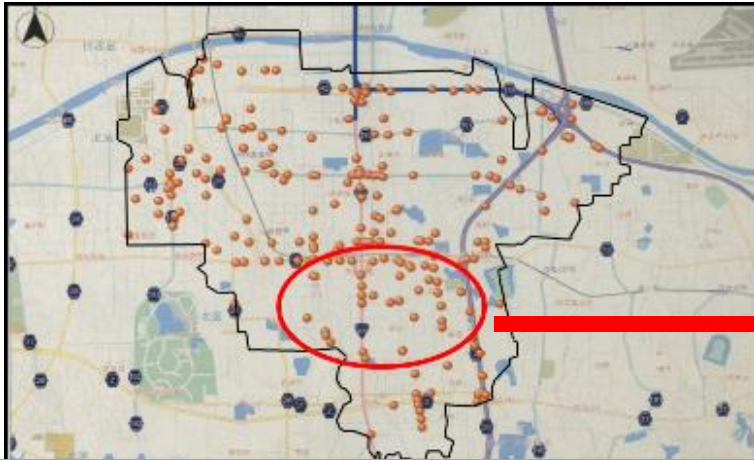


# 方向性①に対する取り組み

## 危険箇所への対策

方向性①		安全な環境づくり
目標		交差点等、事故が起こりやすい場所を周知したり、路面標示などの対策を行い、危険箇所での事故を減少させる。
内容等	実施内容	中学校区毎の危険箇所を示した交通安全ポイントマップを作成。また、マップを参考に、危険箇所への対策を行っていく。
	財源	交通安全協会、府、市
	対象	松原市民
	活動	平成27年に市内の小・中学校の全生徒に配布。 町会に協力してもらい回覧を行うなど。 危険箇所の視察を行い、対策を検討、実施。
	人材	交通安全協会、交通安全対策委員、警察、市（交通安全ポイントマップの作成には、町会、交通安全対策委員、PTA協議会、市内の中学生、プロドライバーが関わっている。）

# 危険箇所への対策 (交通安全ポイントマップ)



交通安全対策委員会、町会、PTA協議会の皆様と共に危険箇所を検討



松原市内の全中学校区の交通安全ポイントマップが完成

# 危険箇所への対策

（「気をつけてや！とびだし注意」路面標示）

## 施工例



2017年度末現在。



15箇所 施工済。

# 危険箇所への対策

## (河内天美駅前 踏み切り対策)

New

河内天美駅 踏み切り整備



河内天美駅 啓発活動の様子





# 危険箇所への対策

## (河内松原駅前 自転車通行対策)

New

### 河内松原駅 道路整備



### 河内松原駅前 啓発活動の様子

1






2



3



# 危険箇所への対策の実績と計画

実績と今後の計画	実績						計画
	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
交通安全ポイントマップ	交通安全ポイントマップの検討	松原中学校区完成	松原市内全中学校区完成	約2万枚を配布。	—	—	 対策委員会において、検討し改正予定。
「気をつけてや！」路面標示	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">・路面標示箇所の検討</div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">・路面標示デザイン検討</div>		13箇所 27枚施工	2箇所 2枚施工	 対策委員会において、検討の上、必要な箇所に対して施工予定。
街頭キャンペーン			河内天美駅 4回	河内天美駅 2回	河内松原駅 3回	河内松原駅 3回 河内天美駅 1回	 必要に応じて、街頭啓発活動を行う。
対策委員会の関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通安全ポイントマップを参考に危険箇所の視察、対策を検討</li> <li>「気をつけてや！」路面標示箇所の検討</li> <li>交通安全街頭キャンペーンでの呼び掛け</li> </ul>						

# 危険箇所への対策の評価指標

課題		交差点等、事故が起こりやすい場所がある。	
目標		交差点等、事故が起こりやすい場所を周知したり、路面標示などの対策を行い、危険箇所での事故を減少させる。	
指標	意識・知識	危険箇所への整備や対策をおこなった数	(測定方法) ① 危険箇所を知り整備や対策をおこなう ② 危険箇所の整備及び路面標示・看板設置件数 ③ 整備及び路面標示・看板設置をおこなった箇所
	態度・行動		
	状況	自転車事故の内、危険箇所への整備や対策をおこなった箇所での事故発生件数・割合	(測定方法) ① 危険箇所（事故発生場所）の減少 ② 整備や対策をおこなった箇所での自転車事故発生件数 ③ 警察記録・整備実績記録

# 危険箇所への対策の指標に基づく測定結果

## ◆意識・知識（短期指標） ◆態度・行動（中期指標）

	2012	2013	2014	2015	2016	2017
危険箇所の整備 及び路面標示件 数（参考値）	174件	84件	78件	85件	80件	53件

## ◆状況（長期指標）

	2012	2013	2014	2015	2016	2017
自転車事故発生 箇所数 （参考値）	204箇所	190箇所	200箇所	172箇所	198箇所	178箇所

2014年度から長期指標を変更

## ◆状況（長期指標）

長期	2014	2015	2016	2017
自転車事故の内、整備や対策を おこなった箇所での発生件数・ 割合（参考値）	7件 (3.5%)	2件 (1.16%)	2件 (1.01%)	3件 (1.69%)

# 方向性②に対する取り組み

## 自転車の交通ルール、マナーの周知

方向性②		自転車利用者の交通安全意識の向上。
目標		交通ルール、マナー違反を減少させることで、交通事故を減少させる。
内容等	実施内容	交通安全教室
	財源	交通安全協会、警察、市など
	対象	主に市内の保育園児、幼稚園児、小学生、中学生、高校生、大学生、高齢者
	活動	市内の各所を回り、正しい交通ルール、マナーの啓発活動を行っている。
	人材	松原警察、交通安全協会、老人クラブ連合会、交通安全対策委員、市

# 自転車の交通ルール、マナーの周知 (交通安全教室)



保育所・幼稚園での交通安全教室



高齢者への交通安全教室



小学校での交通安全教室

# 自転車の交通ルール、マナーの周知 (元希者クラブ高齢者自転車大会)

New



元希者クラブが主体となり、2014年から毎年開催している。



大阪府高齢者自転車大会で、毎年優秀な成績を収めている。

# 自転車の交通ルール、マナーの周知

## (土曜子ども体験での交通安全教室)

New

2018年度 犯罪の防止対策委員会と合同開催!

自転車の乗り方指導



トラック運転席からの見え方体験



トラックの内輪差による事故シミュレーション



防犯教室




### 内容

- ・不審者に声をかけられたときの対応方法の実践
- ・オリジナル防犯ブザーの作成



# 自転車の交通ルール、マナーの周知

## 実績と計画

実績と 今後の計画	実績						計画
	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
交通安全教室	61回 11,538人	52回 9,223人	60回 9,325人	89回 11,180人	81回 12,520人	76回 11,378人	 継続
対策委員会の 関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通安全教室への参加の呼び掛け</li> <li>高齢者自転車大会の参加</li> <li>土曜子ども体験で行った交通安全教室での指導役などで協力</li> </ul>						

# 自転車の交通ルール、マナーの周知

## 取り組みの評価指標

課題		自転車乗用中に交通ルール違反があり、事故に遭っていることが多い。	
目標		交通ルール、マナーを遵守させることにより、交通事故を減少させる。	
指標	意識・知識	自転車ルール、マナーの認知度	(測定方法) ① 自転車の交通ルール、マナーを知っている人の増加 ② 自転車利用者アンケート調査(1年毎) ③ 交通安全教室参加者
	態度・行動	自転車ルール、マナーを守っている人の割合	(測定方法) ① 自転車の交通ルール、マナーを守っている人の増加 ② 松原市民のけが及び安心安全に関する実態調査アンケート(3年毎) ③ 自転車乗用者
	状況	自転車乗用中の事故やけがの人数・割合	(測定方法) ① 自転車乗用中の事故やけがの減少 ② 救急搬送データ(1年毎) 警察統計データ(1年毎) ③ 自転車乗用者

# 自転車の交通ルール、マナーの周知

## 指標に基づく測定結果①

### ◆意識・知識（短期指標） n = 総数

	2012	2013	2014	2015	2016	2017
<b>自転車ルール、マナーの認知度</b> (交通安全教室受講後、保護者に対する自転車利用者アンケート)	89.7% n = 2,717	81.5% n = 1,274	82.7% n = 1,768	88.6% n = 2,197	88.1% n = 1,274	89.2% n = 1,693

### ◆態度・行動（中期指標） n = 総数

	2012	2013	2014	2015	2016	2017
<b>自転車ルール、マナーを守っている人の割合</b> (松原市民のけが及び安心安全に関する実態調査アンケート)	—	—	56.5% n = 1,625	—	—	54.0% n = 1,073

※自転車ルールのうち、最も重要度の高い「交差点での信号遵守と一時停止・安全確認」を守っている割合

# 自転車の交通ルール、マナーの周知

## 指標に基づく測定結果②

### ◆状況（長期指標）（救急搬送データ）

	2012	2013	2014	2015	2016	2017
自転車乗用中の事故やけがの人数 （10万人あたり）	323人 （254人）	313人 （252人）	326人 （264人）	283人 （231人）	282人 （231人）	297人 （245人）

### ◆状況（長期指標）（警察統計データ）

	2012	2013	2014	2015	2016	2017
自転車乗用中の事故やけがの人数 （10万人あたり）	222人 （178人）	222人 （179人）	222人 （180人）	196人 （160人）	230人 （189人）	195人 （161人）

# 方向性②に対する取り組み ヘルメットの着用啓発

方向性②	自転車利用者の交通安全意識の向上。	
目標	特に頭部受傷の割合が高い子どもと高齢者の自転車用ヘルメット着用を推進し、頭部受傷による重症化を予防する。	
内容等	実施内容	交通安全対策委員会で自転車用ヘルメットを考案 高齢者自転車用ヘルメット購入費助成制度 幼児2人同乗用自転車購入費助成制度
	財源	老人クラブ連合会、交通安全協会、市
	対象	子ども、高齢者
	活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通安全対策委員会で考案した高齢者自転車用ヘルメットを交通安全協会にて販売。</li> <li>町会、老人クラブ連合会等に協力してもらい回覧による周知啓発。</li> <li>まつばら市民まつりのパレードの中で、老人クラブ連合会がヘルメットを着用して啓発活動を行うなど。</li> </ul>
	人材	老人クラブ連合会、交通安全協会、交通安全対策委員、警察、市

# ヘルメットの着用啓発

## (自転車用ヘルメット普及・着用啓発) ①

New



☆交通安全対策委員会 考案☆  
お洒落な自転車用ヘルメット  
(自転車保険付き)

作製協力

松原交通安全協会

松原市老人クラブ連合会

松原市シルバー人材センター

2016年7月27日新聞記事に！！



### 帽子付きヘルメット好評

自転車安全にお年寄り抵抗なく

松原市が、65歳以上の高齢者を対象に着用を促すため、手作りの帽子をかぶせた自転車用ヘルメットが人気となっている。4月に施行された府の「自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例」に合わせ、自転車損害賠償保険（今月から利用者の加入が義務化）とともに3点セットとし、購入費の一部も助成して売り出したところ、既に800個を超える注文があった。市は「想定外の売れ行き」と驚いている。

松原市 考案

同市は2013年11月、世界保健機関（WHO）が安全なまちづくりの力を注ぐ自治体を認める制度「セーフコミュニティ」に、府内で初めて認証。子供の安全や犯罪の防止など六つのテーマで対策委員会を設置し、安全なまちづくりに向

人気となっている、帽子をかぶせた自転車用ヘルメット（松原市）

けた取り組みを進めてきた。高齢者による自転車事故の被害防止対策にも力を入ってきたが、昨年は同市内で37人の高齢者が自転車事故で負傷し、うち4人が転倒した際に頭を打つなどして重傷を負ったという。そこで、市のセーフコミュニティ交通安全対策委員会が「見た目が帽子なら抵抗なくかぶってもらえるのでは」と、ヘルメットカバーとして帽子をかぶせることを着用促進策として考え出した。

市は、自転車条例に「高齢者へのヘルメット着用を促す項目」が盛り込まれたことを受け、今年度、帽子とヘルメットの購入費の一部を助成することにした。帽子のデザインは男女の種類ずつで、市老人クラブ連合会などに作製を依頼。生地は7種類あるが、持ち込みも可能で注文が相次ぎ、生産が追いついていない状況という。購入費は1セット5000円（税込み）で、2000円を上限に市が助成している。

# ヘルメットの着用啓発

## (自転車用ヘルメット普及・着用啓発 ②)

まつばら市民まつりでの  
ヘルメット 普及・着用啓発活動



活動報告会での周知・啓発



各種団体の啓発活動等により、  
自転車用ヘルメット

**2016年度の普及個数は大阪府下1位**

**1年間で自転車用ヘルメット普及個数  
1,000個を超える。**

### ☆松原市老人クラブ連合会からのお知らせ☆

松原市は、地域の方とともに安心・安全なまちづくりをセーフコミュニティ活動を通して進めており、その一つに交通安全対策があります。交通安全対策委員会では、自転車用ヘルメットの着用啓発を推進しています。特に65歳以上の高齢者の方は頭部受傷により重症化する割合が高くなっているため、以下の対策をされています。

#### ① 交通安全対策委員会で考案した帽子に見えるような自転車保険付きのヘルメット。



販売先：松原交通安全協会

住 所：松原市阿保1-2-30  
松原商工会議所1階

金 額：5,000円(自転車保険付き)

※写真の自転車用ヘルメットの購入手続き等、  
老人福祉センター(老人クラブ)へ問い合わせおよび申し込み受付します。

#### ② 65歳以上の高齢者の方に対し、自転車用ヘルメット購入費用の一部を助成

(助成金額・購入費の2分の1で100円未満を切り捨て。上限2,000円。)

##### 【助成対象者の要件】

- ヘルメットを購入した日から請求の日までにおいて、松原市に住居を有し、現に居住していること。
- ヘルメット購入時において、65歳以上であること。
- ヘルメットを購入した日から6箇月を経過していないこと。
- 助成の対象となるヘルメットは1個を限度とする。



※自転車用ヘルメット購入費助成金の申請手続き等、詳しくは市民協働課までお問い合わせください。  
お問い合わせ・申請先/市民協働課 TEL 072-334-1550

皆さん、自転車利用時には自転車用ヘルメットを被り、安全運転を心がけてください。♪

New

# ヘルメットの着用啓発

## (自転車用ヘルメット普及・着用啓発 ③)

公務中、市の職員も  
自転車用ヘルメット着用



自転車用ヘルメット  
着用啓発ポスター

児童・幼児 高齢者

### 自転車に乗るときは ヘルメットがぶってや!

65歳以上の高齢者の方が自転車乗用中の  
事故において頭部を受傷する割合が  
高くなっており、自転車用  
ヘルメットを着用しましょう!

65歳以上の方を対象とした

#### 自転車用ヘルメット 購入費助成制度を ご活用ください。

自転車を安全に利用しましょう。たとえば……

- 1 高齢者・子どもはヘルメットを着用しましょう。
- 2 自転車は歩道通行を避けましょう。(歩道は原則)
- 3 歩道は左側を通行しましょう。
- 4 歩道を通行する時は歩行者を優先し、歩道寄りを行きましょう。
- 5 交通ルールを守りましょう。
  - ・交差点では信号を守り、一時停止と安全確認を心掛けましょう。
  - ・夕暮れ時からライトを点灯するようにしましょう。
  - ・飲酒運転・二人乗り・並進は禁止です。

交通マナー  
守ってやっ!

松原市セーフコミュニティ交通安全対策委員会・松原交通安全協会  
TEL 072-334-1550



# ヘルメットの着用啓発

## 実績と計画

実績と今後の計画	実績						計画
	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018～
高齢者 自転車用 ヘルメット 着用啓発	交通安全教室内 において、子ども も及び高齢者の 自転車用ヘル メット着用啓発		高齢者の自転車 用ヘルメット普 及・着用率が低 いため、対策を 検討		広報掲載 年3回 町会への回覧 2,900枚	広報掲載 年2回	普及・着用率 を上げるため 市民への周知 し、継続して 行う。
高齢者 自転車用 ヘルメット 普及個数					2016年4月～ 2017年3月 1,040個	2017年4月～ 2018年3月 累計1,098個	目標（累計） 1,300個
対策委員会 の関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子ども・高齢者の自転車用ヘルメット着用の推進</li> <li>・ 自転車用ヘルメット普及・着用に関する内容の周知・啓発活動</li> <li>・ 高齢者自転車用ヘルメットの考案（交通安全協会にて販売）</li> </ul>						

# ヘルメットの着用啓発

## 取り組みの評価指標

課題		頭部受傷率が高い。	
目標		特に頭部受傷の割合が高い子どもと高齢者の自転車用ヘルメット着用を推進し、頭部受傷による重症化を予防する。	
指標	意識・知識	ヘルメットの重要性の認知度	(測定方法) ① 子ども・高齢者のヘルメット着用義務の認知度を上げる ② 就学前児童の保護者（交通安全教室参加者）、高齢者（市民意識調査アンケート回答者） ③ アンケート調査（1年毎）
	態度・行動	就学前児童・高齢者のヘルメット着用率	(測定方法) ① 就学前児童・高齢者のヘルメット着用率の増加 ② 就学前児童の保護者（交通安全教室参加者）、高齢者（市民意識調査アンケート回答者） ③ アンケート調査（1年毎）
	状況	自転車事故による子ども・高齢者の頭部受傷率	(測定方法) ① 子ども・高齢者の頭部受傷者の減少 ② 自転車乗用者（就学前児童、高齢者） ② 救急搬送データ（1年毎）

# ヘルメットの着用啓発

## 指標に基づく測定結果①

### ◆意識・知識（短期指標） n = 総数

	2012	2013	2014	2015	2016	2017
<b>ヘルメットの重要性の認知度</b> (自転車利用者アンケート調査)	81.8% (n=198)	65.3% (n=98)	75.0% (n=136)	60.9% (n=169)	72.4% (n=98)	73.8% (n=130)

### ◆態度・行動（中期指標） n = 総数

	2012	2013	2014	2015	2016	2017
<b>就学前児童のヘルメット着用率</b> (自転車利用者アンケート調査)	14.0% (n=198)	11.2% (n=98)	25.7% (n=136)	24.8% (n=169)	29.6% (n=98)	26.9% (n=130)

	2012	2013	2014	2015	2016	2017
<b>高齢者のヘルメット着用率</b> (市民意識調査アンケート回答者)	-	-	-	1.6% (n=181)	3.4% (n=146)	5.4% (n=130)

# ヘルメットの着用啓発

## 指標に基づく測定結果②

### ◆状況（長期指標） n = 総数

	2012	2013	2014	2015	2016	2017
自転車事故による子どもの頭部受傷率 (0～6歳)	56.3% (n=16)	41.7% (n=12)	66.7% (n=12)	40.0% (n=5)	55.6% (n=9)	69.2% (n=13)

	2012	2013	2014	2015	2016	2017
自転車事故による高齢者の頭部受傷率 (65歳以上)	31.2% (n=120)	30.4% (n=148)	30.4% (n=184)	23.3% (n=137)	28.1% (n=142)	30.4% (n=112)

	2012	2013	2014	2015	2016	2017
自転車事故による頭部受傷率 (全年齢)	31.3% (n=323)	35.1% (n=313)	34.9% (n=326)	25.8% (n=283)	30.1% (n=282)	31.0% (n=297)

# 現在の課題

- ① 自転車関連事故の件数は、他に比べ多く、その中でも高齢者の自転車乗用中の事故の割合が高い。
- ② 自転車用ヘルメットの普及率・着用率が低い。



**継続して交通安全対策が必要**

# 今後の予定

## (安全な環境づくり)

### ・危険箇所の対策

交通安全ポイントマップを参考に、危険箇所を見聞し、視察、対策を検討し、実施していく。

## (自転車利用者の交通安全意識の向上)

### ・自転車の交通ルール、マナーの周知

各小学校の地域との交流の中で土曜子ども体験等の機会を活用させていただき、親と子ども一堂に集まる交通安全教室を行っていく。

### ・ヘルメットの着用啓発

自分の身は自分で守る。  
引き続き高齢者自転車用ヘルメットの普及・着用啓発を推進していく。

# ご清聴ありがとうございました



大阪初！セーフコミュニティ国際認証都市まつばら  
「みんなでつくる 安心・安全なまちづくり」